

各関係機関長 様

佐賀県農業技術防除センター所長

ナシ黒星病の防除対策の徹底について

本年は、ナシの開花期前後の降雨量が平年より多く、ナシ黒星病の感染に好適な条件で経過したため、今後多発生する恐れがあります。

つきましては、下記事項を参考に、防除対策を徹底してください。

記

1. 発生概況と気象条件

- 1) 本病の主要感染期である開花期前後(4月1日～20日)の平均気温は14.3 と平年(13.2)よりも高く、また、降雨量は247 mm(平年比204%)と平年より多く、感染に好適な条件で推移した。(気象データは伊万里観測所の値)
- 2) 開花期前後(4月1日～20日)の降雨量が191mm(平年比158%)と多かった平成22年は、ナシ黒星病の発生が平年より多かった。そのため、本年も5月上旬に本病が多発生する恐れがあり、注意が必要である(図1)。
- 3) 4月20日に実施した巡回調査では、発病果率は0.2%(平年0.1%、前年0%)、発生圃場率20%と平年並の発生であったが、4月28日に再度、調査(4月20日と同一圃場)を実施したところ、発病果率は0.6%、発生圃場率は40%と発生が増加傾向にある。

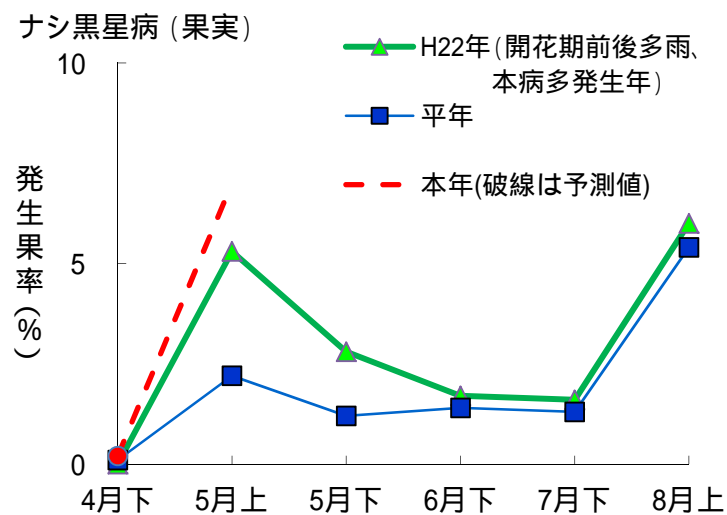


図1 巡回調査におけるナシ黒星病の発生推移

2. 防除対策

- 1)罹病果実、罹病葉は伝染源となるため、早急に取り除き、園外に持ち出し処分する。
- 2)DMI 剤耐性菌の発生を防止するため、5～6月中旬までの薬剤防除は、原則的に保護殺菌剤を使用する。ただし、発病が認められた場合や長雨等で薬剤散布ができなかった場合は DMI 剤を散布する(表 1)。
- 3)多くの果実が着果していると、薬液が果実に付着しにくくなるため、摘果作業が遅れないよう注意する。
- 4)スピードスプレーヤーで薬剤散布する場合は、全列走行を基本とし、薬液が到達しにくい園周縁部等は手散布を実施するなどして、丁寧に散布する。
- 5)薬剤散布の際には、周辺作物への飛散防止に努めるとともに、使用基準を遵守する。
- 6)その他、防除の詳細については「[平成 27 年度施肥・病害虫防除・雑草防除のてびき P298～P303](#)」を参照する。

表 1 ナシ黒星病の主要な DMI 剤

薬剤名	希釈倍数	収穫前日数	使用回数
アンビルフロアブル	1,000 倍	7 日前まで	3 回以内
スコア顆粒水和剤	4,000 倍	14 日前まで	3 回以内
インダーフロアブル	8,000 倍	7 日前まで	3 回以内



(参考写真) 黒星病多発園における果実、果柄及び葉柄部の病徴(矢印: 病斑部)